



都市地下空間活用研究会

Urban Underground Space Center of Japan

USJ NEWS LETTER

令和4(2022)年3月 No.19

第54回定例懇話会報告

去る2月4日、大手町の3×3ラボ・フューチャーにおいて第54回定例懇話会がリアルとウェブを併用したハイブリッド方式で開催されました。

今回は、当会の大阪分科会で副座長を務めていただいている京都大学大学院 工学研究科 准教授の松中亮治先生に「公共交通が人とまちを元気にする」と題してお話をいただきました。

この話題は、富山市と京都大学等がGPS 端末を使って高齢者や中心市街地来街者の歩数・来街頻度・歩行範囲・滞在時間・消費金額を総合的に捉えた「交通と健康モニタリング調査」の結果をもとに、「公共交通は健康によく、中心市街地の活性化に貢献する」ことを初めて客観的・定量的に実証したもので、都市・保健政策関係者に科学的な根拠と政策立案へのヒントを与えるものとして、昨年6月に同名の図書が出版されました。松中先生にはこの調査のご紹介をいただくとともに、地下空間に賑わいをもたらすためのご示唆をいただきました。

以下ではこの講演の様子を振り返ります。なお、今回も終了後の意見交換会については残念ながら見送りとなりました。



富山市は森前市長の下で「コンパクトなまちづくり」政策を推し進めてきました。ポータル、セントラムとトランジットモールの社会実験をはじめとした、公共交通、まちなか居住、中心市街地に関する3本柱の政策がそれです。その中に「お出かけ定期券事業」というものがありました。これは図1に示すように65歳以上の高齢者が1000円/年の負担で、中心市街地で乗車あるいは降車した場合1乗車あたり100円で公共交通が利用できるしくみです。



図1 お出かけ定期券事業の概要

「交通と健康モニタリング調査」は2015年度から2019年度にかけて実施されました。公共交通が人(お年寄り)やまちを元気にすることを定量的に明らかにすることを目的に、高齢者や中心市街地来街者を対象に、実際の交通行動や外出行動が専用の携帯端末を用いて詳細に調査されました。その調査工程は図2に示す通りです。調査は高齢者交通行動調査と、中心市街地回遊調査の2つからなり、お出かけ定期券の利用者と非利用者、公共交通利用者と自動車利用者を比較する形で

分析されました。

まず、お出かけ定期券の利用の有無による高齢者の一日の平均歩数の比較です。図3に示すようにお出かけ定期券を持っているほうが一日の平均歩数が多く、高齢者全体では約770歩の差がありました。また、同様に中心市街地での滞在時間にも図4に示すように差が出ます。一ヶ月あたりに換算するとお出かけ定期券を持っているほうが、約180分滞在時間が長くなるようです。

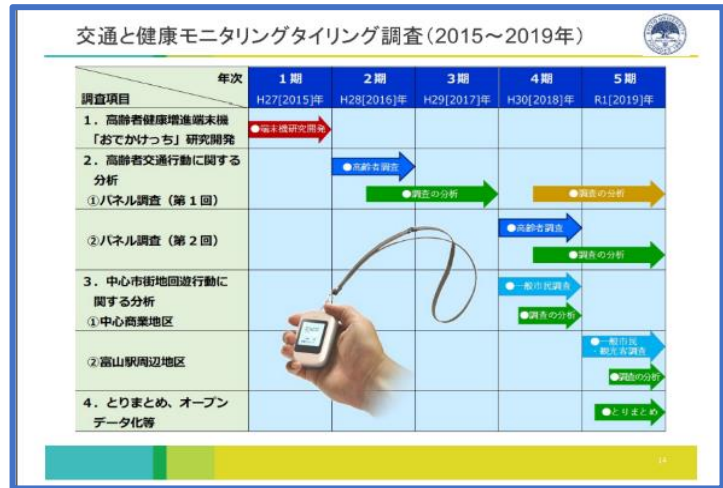


図2 交通と健康モニタリング調査の工程

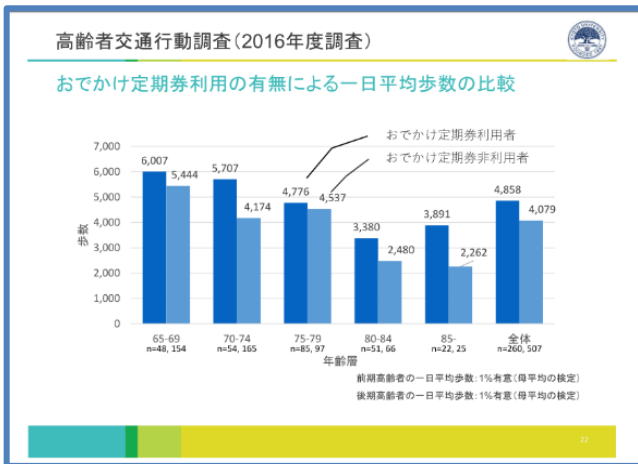


図3 お出かけ定期券の利用の有無による一日の平均歩数の比較

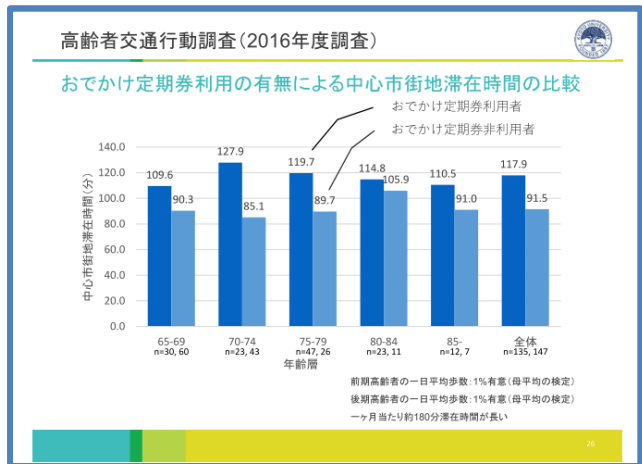


図4 お出かけ定期券の利用の有無による中心市街地滞在時間の比較

高齢者交通行動調査では2016年度と2018年度にパネル調査を実施しました。その結果、お出かけ定期券の所有・利用別に一日平均歩数の経年変化をみると、図5に示すように加齢より歩数の減少はありますが、お出かけ定期券を所有している高齢者のほうが、非所有の高齢者より、減少の程度が少ないことがわかりました。また、お出かけ定期券の所有者で利用日数別に一年あたりの医療費の支出を比較すると、図6に示すように、特に後期高齢者では利用日数が12日以上の方が12日未満より少ないに傾向が現れました。

この傾向を富山県や富山市の他の統計数値も利用して医療費抑制効果として金額換算すると、約7.9億円/年の医療費抑制効果と試算されました。

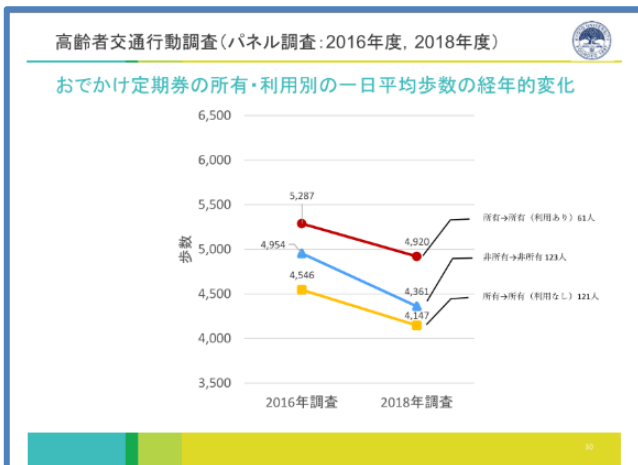


図5 お出かけ定期券の所有・利用別の一日の平均歩数の経年変化

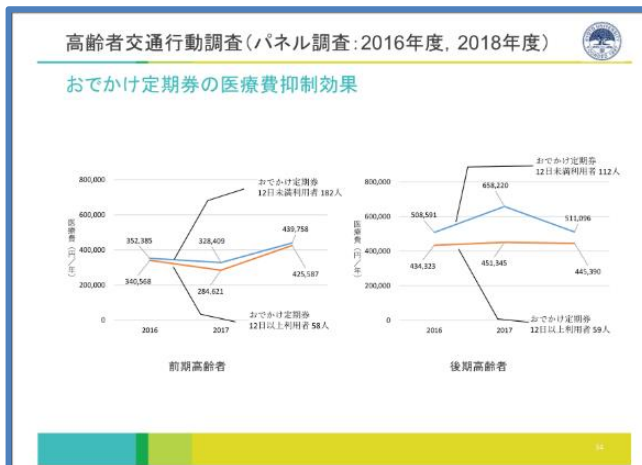


図6 お出かけ定期券の医療費抑制効果

中心市街地回遊調査は2018年度に中心商業地区で2019年度に富山駅周辺地区でそれぞれ実施しました。自家用車利用者と公共交通利用者との間には図7に示すように滞在時間、平均歩数に、また図8に示すように平均訪問箇所数に違いがありました。更に図9の比較表のように自家用車利用者と公共交通利用者との間に消費金額に差があり、特に富山駅周辺では統計的に有意な差となりました。

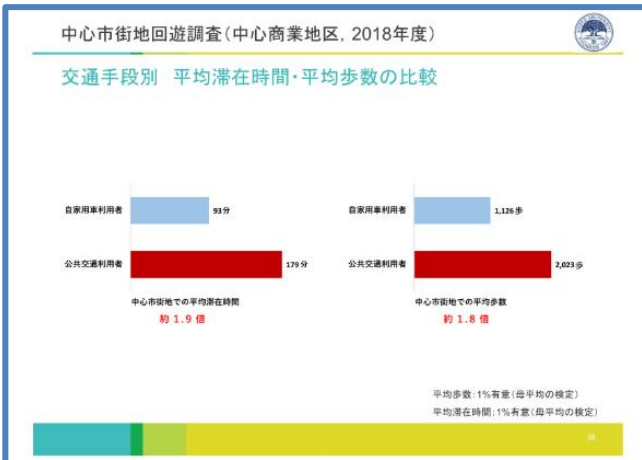


図7 平均滞在時間、平均歩数(中心商業地区)

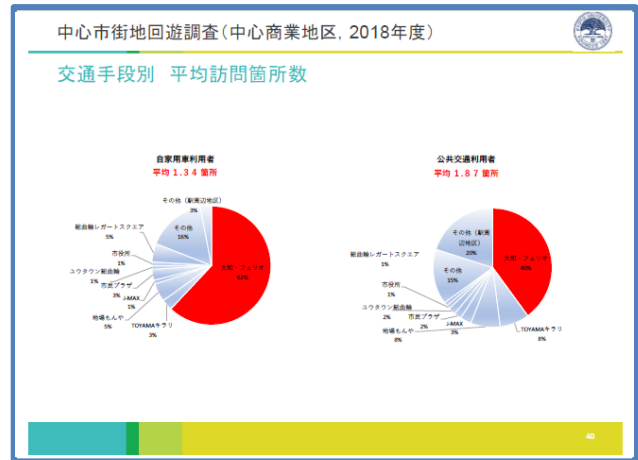


図8 平均訪問箇所数(中心商業地区)

最後に今回の調査から地下空間への示唆を考えてみました。地下空間は本来、歩く空間として形成されており、その意味で健康的であると思います。また、地上の歩行空間や公共交通とのアクセスもよく、魅力を高める潜在力が大きいと言えます。そこで大切なのは地上・地下を一体的に考え、連携・補完することでこの魅力を最大限引き出すことだと考えます。

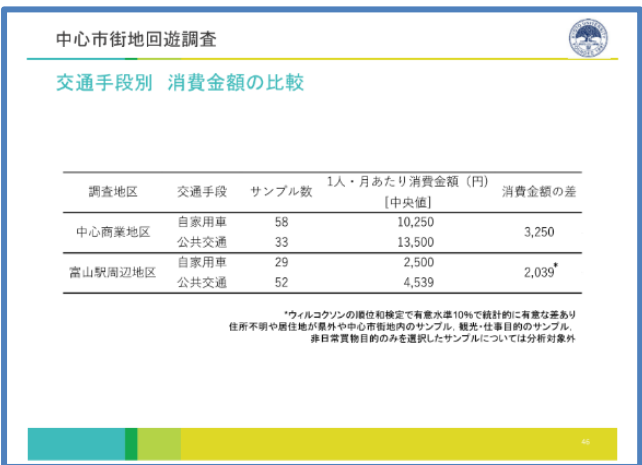


図9 消費金額の比較

さいごに
地下空間に賑わいをもたらすために

- 地下空間と健康
 - 歩く機会が増えるという意味では健康増進に寄与
- 魅力的な地下空間
 - 地下空間独自の魅力とは？
 - 天候・空調／自然・ダンジョン
 - 高いアクセス性
 - ex. 歩行者空間と公共交通の連携
 - 地上空間との連携・共存(補完関係)
 - 地下空間を整備することにより、地上に魅力的な都市空間を創出

図10 今回の調査から地下空間への示唆

今回の調査は図書としてまとめているので、是非ご一読ください。

公共交通が人とまちを元気にする！ 詳細は...

「数字で読みとく」 富山のコンパクトシティ戦略 公共交通が人とまちを元気にする

松中亮吾 著

なぜ歩いて暮らせるコンパクトなまちづくりを目指すのか？

富山市長 森雅志 推薦

図書のご紹介